

大腸内視鏡検査（治療）

日帰り大腸ポリープ切除術（短期滞在手術）を受けて頂く方へ

【目的】

大腸（直腸と結腸に分けられる）と小腸の最終部分（回腸終末部）におこる癌やポリープ、炎症などの病気の診断や治療を目的に行われます。

【準備】

大腸に便が残っていても十分な検査ができません。便を十分に取除くため、検査前日の夜に2種類の下剤を服用して頂きます。さらに検査の当日、検査が始まる約3時間前から約2リットルの下剤を服用して頂き、細かな“便のかす”まで洗い流して頂きます。なお、検査当日は検査終了まで絶食となります（ただし、水やお茶など、糖分を含まない透明な水分は飲んで頂いても大丈夫です）。

【検査（治療）の実際】

◇検査前の投薬

検査の直前に睡眠導入剤や鎮痛剤を静脈に注射します。これによって痛みの少ない、楽な検査（治療）を受けて頂けます。しかし検査（治療）終了後は頭がボーッと、足元もフラフラとする場合があります。

検査（治療）終了後約1時間で歩いてお帰り頂ける状態になりますが、車の運転はできませんので、御自分で運転されての御来院はご遠慮下さい（睡眠導入剤使用後の運転は道路交通法第66条違反です）。

◇検査の方法

検査台に身体を左側を下にして横たわって頂きます。その後、担当医師が肛門から直径約1cmの内視鏡を挿入し、クネクネと曲がった大腸をアコーディオンをたたむようにまっすぐにしながら進み、長さ約1.5mの大腸を80cm位に短くして、大腸の一番奥（盲腸）、さらに小腸の一部（回腸終末部）にまで入って観察します。

【検査（治療）後】

◇観察だけの場合には特に注意や制限はありません。

◇粘膜のごく一部を採取して（生検）、細胞レベルでの検査を行う場合には、当日の飲酒を止めて頂き、出血防止の薬を服用して頂きます。

◇大きさが5mm以上の腫瘍性ポリープなどが発見された場合には、その場で直ちに病変全体を切除することがあります（ポリープ切除術あるいは粘膜切除術）。切除後には約1週間の食事制限、飲酒制限、運動制限などが必要になります。

【偶発症】

内視鏡検査や治療によって出血や腸の壁に穴が開く（穿孔）ことがあります。その可能性は低く、全国集計では大量出血で0.007%、穿孔で0.02%程度です。

特に出血は安静保持や食事制限などで止まることが多く、緊急の場合でも再び内視鏡検査を行って、出血部位に対して適切な止血処置を行えば、開腹手術を必要とすることなく治ることがほとんどです（穿孔の場合には開腹手術が必要となることもあります）。

夜間・休日を問わず、当院で可能な限りの緊急対応を行わせて頂きますが、より高度の対応が必要と判断された場合には、大阪府済生会吹田病院などの連携医療機関に迅速に紹介させて頂きます。

特別に注意して頂くこと

他の病気で治療中の方や、糖尿病や肝硬変症など、出血がなかなか止まらないような病気の方は、事前にお申し出下さい。

特に心臓病や脳血管障害などで血液が固まりにくくなる薬を服用中の方は必ず事前に御相談下さい。薬の種類によって検査の1～7日前から服用を一時中止して頂く必要があります。

また、心臓ペース・メーカーを御使用中の方も必ずお申し出下さい。ポリープを切除する際に使う電気メスによってペース・メーカーに悪影響を及ぼす可能性があり、安全な器具を特に選んで使用させていただきます。

日帰りポリープ切除術あるいは粘膜切除術（短期滞在手術）

検査中に大きさ 5mm 以上の腫瘍性病変が発見された場合、ただちに、その場で病変全体を切除させて頂くことがあります。

大腸腫瘍性病変の場合、良性腫瘍（腺腫）の一部に癌が存在することが少なくありません。したがって、腫瘍のごく一部だけを採取（生検）して病理検査（細胞レベルでの顕微鏡検査）を行っても、良性部分だけを見てしまい、癌を見落とす可能性があります。そこで癌の可能性が十分に考えられる 5mm 以上に大きな病変に対しては、取り残すことなく、まるごと切除することで確実な診断と治療を同時に行う必要があります。ふつうのポリープはポリープ切除術によって治療します。しかし平べったいもの（扁平型）や凹んだもの（陥凹型）、あるいは癌の可能性が高いものには粘膜切除術を行い、周囲の正常部分を含めてやや大きく切除します。

ほとんどのポリープは外来通院で安全に切除できますが、2cmに近いような大きな病変の場合には入院の上での切除が必要になることがあります。そのような場合は大阪大学医学部附属病院や大阪府済生会吹田病院の消化器内科など、適切な医療機関に御紹介し、安全かつ確実な治療を徹底させていただきます。

◆経済的な御負担について

もちろん健康保険の対象ですが、短期滞在手術はかなり高額な医療になります。広い範囲にポリープが多発していると、より高額になります。

診察料と内視鏡検査料あるいはポリープ切除手術料に加え、生検やポリープ切除に伴う病理検査、血液検査などが必要となることがあります。現金でお支払される方は最大4万円程度（3割負担の場合）の現金を御用意下さいますようお願い申し上げます。クレジットカードはご利用可能ですが、電子マネーやコード決済はできません。

一方、生命保険の給付対象となる場合がありますので、ご加入されている生命保険会社に「外来通院（日帰り）で『内視鏡的結腸ポリープ切除術』を受けたが、保険金の給付対象となりますか？」とお尋ね下さい。対象であれば当クリニックから診断書や証明書を発行させていただきます（有料：4,400円）。